



平成28年 4 月号

社会福祉法人翠浩会
障害者支援施設

新 光 苑

<http://www.shinkoen.net/>
〒360-0832 熊谷市小島527番地
TEL. 048-532-0665

**快記録は
どうして生まれたか**
苑長 西田良次



3月下旬、保護者より「インフルエンザが流行っていますか、苑の方はどうですか」と尋ねられ「誰もかかった話は聞いていませんが」と返事をしました。念のため看護師に聞いたところ「今年は利用者も職員もかかっていません」との返事で、開苑以来初めての快記録が生まれた事を知りました。

開苑以来この方、冬期はインフルエンザに悩まされ続けました。今年は入所利用者80余名、シヨーステイ、生活介護利用者合わせて120余名、職員も正職員、パート職員合わせて120余名の大世帯になりましたが、何故このような快記録が生まれたか解りません。

予防注射の効果は充分に考えられますが、これだけで完全予防は出来ないで、健康管理に全職員が協力した結果ではと考えています。

利用者の施設生活の中で、一番恐ろしいのは冬の寒さです。私の娘も以前6年間或る施設に入所していました。私の娘がエアコンだけだったので、自費で厚い純毛のジュータンを敷き込んで寒さを防ぎました。その結果風邪が3分の1に減ったと園長より云われました。その経験から平成元年の設立の時は、私の悲願だった床暖房を関東地区では初めて採用し、その後の増築も同じにしました。

現在は全館床暖房になっているので寒さを感じることはありません。この事は職員にとっても同じで、冬期でも軽装で勤務出来るので、行動もしやすく、特に夜勤者にとっては好評です。

次に職員の勤務について。ご承知の通り福祉関係の施設はどこでも人手不足で、有給休暇の消化は困難ですが、当苑では充分の休息が取れるよう配慮しています。

職員環境の整備も重要です。今年「整理」「整頓」「清潔」「清掃」を主題として、清潔な環境のもとで生活出来るよう努めています。

入浴については、リフトの設置により、一般浴は極めてスムーズになり、週3回の入浴で清潔にしています。食事についても管理栄養士の献立により、毎食おいしく食べられるよう充分に注意しています。このように全職員が各部署でのベストをつくした結果ではと思います。

またここ7年間は利用者が亡くなっておりませんので、施設としては珍しいと思っております。

いずれにしても利用者の重度、重複化が進んでいる現在、有難い事だと感謝しています。

これからの施設の展望を考える時、極めて深刻な問題に直面しています。現在施設の入所基準は障害支援区分「5」「6」で常時介護が必要な方で、医療ケアのない方となっていますが、この方が高齢になって常時医療ケアが必要になると、医療機関ではない当苑でお預かりする範疇にないこととなります。加えて保護者も父母から兄妹へと変わってゆくのも必然です。どのように対処すべきかは今後の大きな課題です。

観桜会

4月9日(土)晴天に恵まれた絶好の花見日和の中、「観桜祭」が大ホールを会場として盛大に開催されました。前夜担当職員により設営された華やかな会場に、定刻が近づくと微笑を浮かべつつ、利用者、保護者、職員総勢200余名が集まりました。

午前11時開会、初めに西田苑長より挨拶、次に松本理事より祝辞、新利用者8名の紹介のあと、横川副苑長より看護師他2名の新職員の紹介と新役職者の紹介がありました。

乾杯は小沢学さん、吉田優子さんの音頭で行なわれ、早速お待ちかねの祝宴に入りました。最初の余興は利用者3名、保護者2名、職員2組のカラオケ大会でしたが、特に会場を沸かせたのは島村支援員扮した「ドラえもん」の仮装で、唄も軽妙で爆笑と喝采を浴びました。

第二の余興は太田市新田町に伝わる勇壮な新田太鼓の出演で、この太鼓は新田義貞に起因するとの説明がありました。小太鼓と大太鼓との共演ですが、大太鼓は大人が3、4人で持ち上げる程の大きさです。総勢10人が勢揃いして演奏が始まると、大ホール一杯に太鼓の音が響き渡り、その圧倒的な迫力に巻き込まれてしまいました。

アンコールに収めての1曲に充分の満足頂きました。閉会のあと利用者、保護者、職員は車椅子を押して、満開の桜の花吹雪の中を、隣の運動公園に花見に出掛けました。春空に爛漫と咲いている桜を眺め、行く春を心ゆくまで楽しみました。



二月末、ホール棟のステージ上に雛壇を飾り付けました。女性利用者を中心に雛壇を囲んで写真を撮りました。日中活動では、つるし雛を作り、ひな祭りの歌、春の歌を歌い、桃の節句をお祝いしました。

ひな祭り当日は、昼食にちらし寿司・ひなあられと桃の節句をお祝いするメニューが並びました。利用者は「美味しい」と満足した表情を浮かべていました。暖かい春が待ち遠しい一日となりました。



第二回 森圭一郎 LIVE in 新光苑

主催：森圭一郎ラブハンドプロジェクト
スタートライブ実行委員会

4月2日(出)、熊谷市出身のシンガーソングライター「森圭一郎」さんのライブが新光苑の大ホールを会場として開催されました。森さんは車イス生活の障害者のため「自身で考案された『Love Hand Project』のマークの説明をされ、障害者が外出時など日常生活を気がねなく過ごせる様にこの思いから今後もっと広めてゆきたいと力強く語りました。コンサートも大盛況で、参加者が森さんの歌に感動し深い余韻を残しながらの幕切れとなりました。

この様子はテレビ埼玉の取材があり、4月9日・10日に放映されました。

また、ライブの余剰金10万円は、熊谷市指定有形民俗文化財の愛染明王坐像を所蔵している「愛染堂」の修理工事に寄付をさせて頂きました。その様子が4月19日の埼玉新聞に掲載されました。



余剰金を愛染堂修理に コンサート実行委が寄付

熊谷市下川上にある宝善院と22の市民協団と企業が愛染堂の修理に役立ててもらったこと、「森圭一郎Live in 新光苑」実行委員会が、愛染堂保存修理委員会(木島一也会長)にコンサートの余剰金10万円を寄付。愛染堂に隣接する星宮公民館で、贈呈式が行われた。写真、倒壊の危険がある愛染堂は、約1年前から修理が進められている。寄付金は同市小島の障害者支援施設の新光苑(西田良次苑長)で、NPO「まがやなイベントの合言葉「LOVE」と愛染堂の「愛」にちなみ、余剰金を修理に捐してもらったことになったという。新光苑の横川与志子副苑長は「地域の皆さんの気持ちがひとつになったお金、力になれればうれしい」と願った。

愛染堂保存修理委員会によると、修理に必要な費用は約2500万円。工事のほぼ80%が終わっているが、まだ230万円ほどの資材が不足しているという。愛染堂保存修理委員会事務局の横田透さんは、「愛染堂に愛着を持つ人たちの手で資金を集めたい」と話している。



大麻生中交流会

3月8日に大麻生中交流会が新光苑で行われ、今回は卒業を控えた三年生の最後の訪問でした。開会の言葉の通り、カラオケ、テーブルゲーム、オセロ、車椅子リレーを行なう中でお互いに交流を深め、最後の訪問に相応しい思い出に残る時間を過ごす事が出来ました。

また、今回の訪問では歌だけでなく、生徒さんによる2枚の大きな手作り壁画のプレゼントを頂き、毎日食堂を明るくしてくれています。苑からは、勉強に励んで頂くために苑長より手渡しで一人ひとりにシャープンを贈らせて頂きました。

今後の大麻生中学校の生徒さんとの交流を期待しながら今回の会は閉会となりました。



大幡中学校での講演

熊谷市立大幡中学校から、「1年生を対象に障害者福祉について話をして欲しい」との依頼を受け、2月23日午後2時から同校体育館で、西田苑長が講演しました。

講演前半は「障害者総合支援法」を軸に、三障害一元化と地域移行について話しました。一口に障害者といっても、その種類と程度の広汎な事に、生徒達は驚いていたようです。

後半は、事前に配布していた福島智 東大教授の雑誌対談記事のコピーを読みながら進めました。福島教授は視覚聴覚の重複障害者として、世界初の常勤大学教員となった方です。

彼は、生後5ヵ月で目の病気を患い3歳で右目が、9歳で左目が見えなくなりました。14歳の頃には右耳が、そして18歳の時に突発性難聴で左耳も聞こえなくなるという、私達には想像もつかない経験をされました。

その本人が、障害者になっていく経緯を語っているのですから、峻厳にして壮絶、私達の常識を遥かに超えた内容です。

目が見えず耳が聞こえない世界とは、孤独で不気味な世界、比喩的に言えば宇宙空間、それも地球の夜の側の光も射さない真空の世界、重力もなく手こたえない場所に放り出された感じの状況だそつです。

そんな中でも「絶望とは意味のない苦悩である」との確信を持って、万分の一の可能性に敢然と立ち向かっていく勇氣と、生命に対するの考え方に、生徒達は深い感動を憶えたように感じました。余りに今の生活と

は次元の違う話に衝撃が強かったようです。

結びとして苑長は「人生は『戦わざる者に勝利なし』なので、どんな困難にも挑戦して勝ち抜こう」と言っており、全員に起立して貰い、拳を天に向けて振り上げ、「頑張ろう」と3回唱和して終わりました。

後日生徒たちから、講演感想の手紙の束が送られて来ました。ありがとうございました。



正職員・パート職員の懇親会

3月1日18時半から、職員同士の親睦を目的とした懇親会が、新光苑ホール棟で開催され、参加者は80人を超える盛大な会となりました。今回初めて、給食を調理委託している業者に料理をお願いしましたが、食べきれないほどの美味しい料理と、ケーキが大好評でした。

パート職員は、食事介助・夜勤・送迎専門等、普段顔を合わせる機会が少なく、全員が自己紹介しました。また職員有志のダンスや歌が披露され、ビンゴ大会でさらに盛り上がりました。ビンゴの賞品は、牛ステーキ牛肉と薄切り肉その他例年になく豪華でした。牛肉はふるさと納税制度を利用して、当日の食材も含め、苑長副苑長から提供されました。

懇親会は楽しいうちに幕を閉じ、今後の業務遂行も円滑になる事でしょう。

編集後記

観桜祭までどうかと心配していましたが、満開で迎えられて幸運でした。

「翠」の発行が1ヶ月遅れたことをお詫びします。気がつけば一面の新緑です。心爽やかに頑張りますよ。

